

平成31年2月8日

平成30年における 特殊詐欺の状況について

警視庁特殊詐欺対策プロジェクト

目 次

1 被害状況

(1) 特殊詐欺全体	・・・ 1
(2) オレオレ詐欺	・・・ 4
(3) 架空請求詐欺	・・・ 9
(4) 融資保証金詐欺	・・・ 12
(5) 還付金等詐欺	・・・ 13
(6) 振り込め類似詐欺	・・・ 16
(7) 犯行予兆電話の通報状況	・・・ 18
(8) 犯行利用電話の種別	・・・ 18

2 検挙状況

(1) 本犯検挙状況	・・・ 19
(2) 助長犯検挙状況	・・・ 21

3 未然防止等の状況

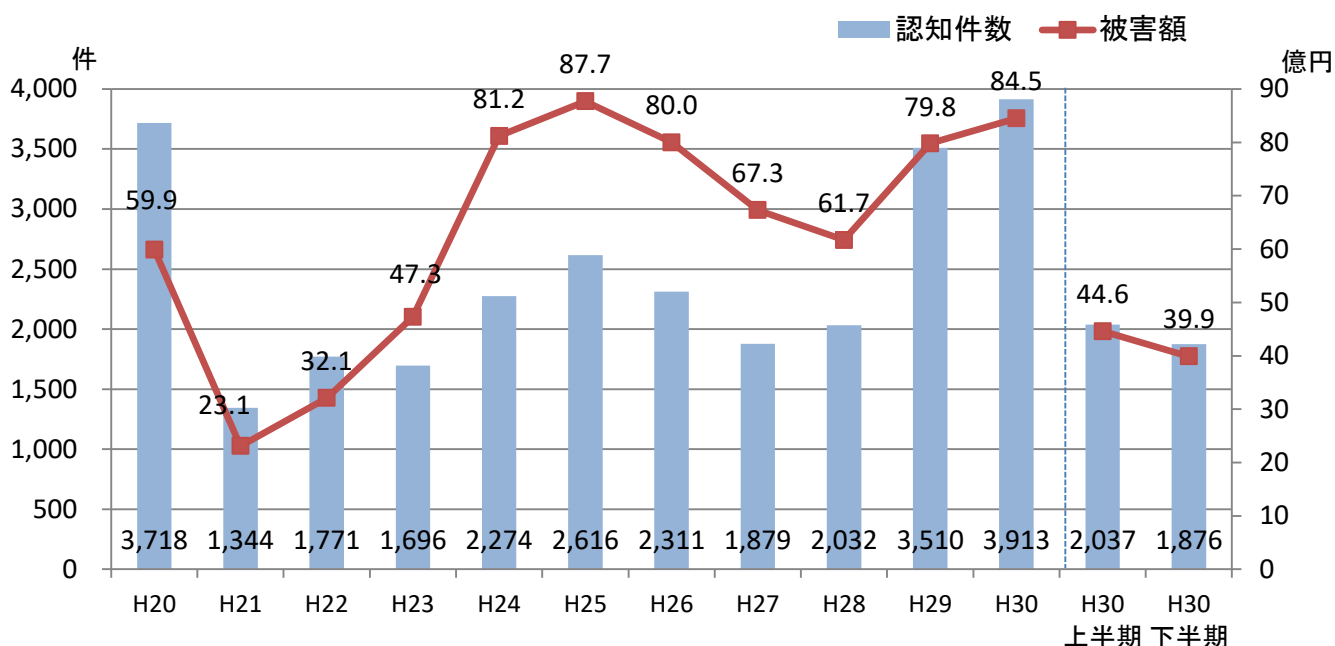
(1) 未然防止(全体)状況	・・・ 22
(2) 金融機関による未然防止状況	・・・ 23
(3) 被害金の調達(全体)状況	・・・ 24
(4) 金融機関における調達状況	・・・ 24
(5) 金融機関窓口における阻止率	・・・ 25
(6) 未然防止の好事例	・・・ 26

※ なお、本統計に関する割合の数値は、四捨五入しているため、内訳の合計が100%にならないことがあります。

1 被害状況

(1) 特殊詐欺全体

特殊詐欺：認知状況の推移



※ 特殊詐欺とは、振り込み詐欺（オレオレ詐欺、架空請求詐欺、融資保証金詐欺及び還付金等詐欺の4類型）とそれ以外の振り込み類似詐欺をいう。

※ 振り込み類似詐欺は、平成23年から計上

特殊詐欺：平成30年における認知状況

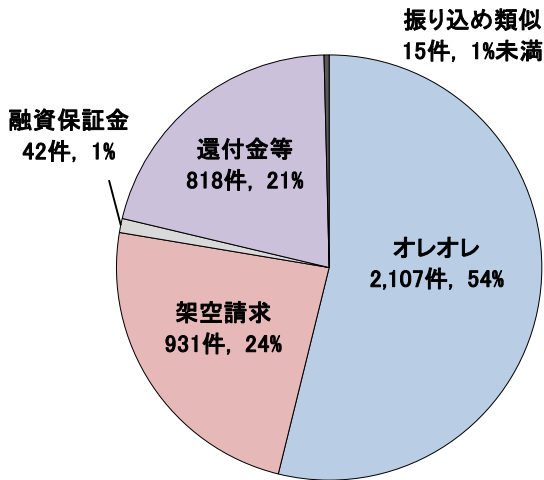
	オレオレ		架空請求		融資保証金		還付金等		振り込み類似		合計	
	うち既遂	うち既遂	うち既遂	うち既遂	うち既遂	うち既遂	うち既遂	うち既遂	うち既遂	うち既遂	うち既遂	
認知件数	2107件	1910件	931件	916件	42件	42件	818件	818件	15件	15件	3,913件	3,701件
前年比	-5件	-23件	+270件	+269件	-3件	-3件	+165件	+166件	-24件	-20件	+403件	+389件
増減率	-1%未満	-1%	+41%	+42%	-7%	-7%	+25%	+26%	-62%	-57%	+12%	+12%
被害額(約)	53億4,918万円		19億1,738万円		7,388万円		10億6,440万円		4,778万円		84億5,262万円	
前年比(約)	-4億2,414万円		+7億4,627万円		+4,049万円		+2億5,343万円		-1億4,163万円		+4億7,442万円	
増減率	-7%		+64%		+121%		+31%		-75%		+6%	
平均被害額(既遂)	280万円		209万円		176万円		130万円		319万円		228万円	

※ 被害額は、カード詐欺被害におけるその後の引出額を含む（以下同じ。）。

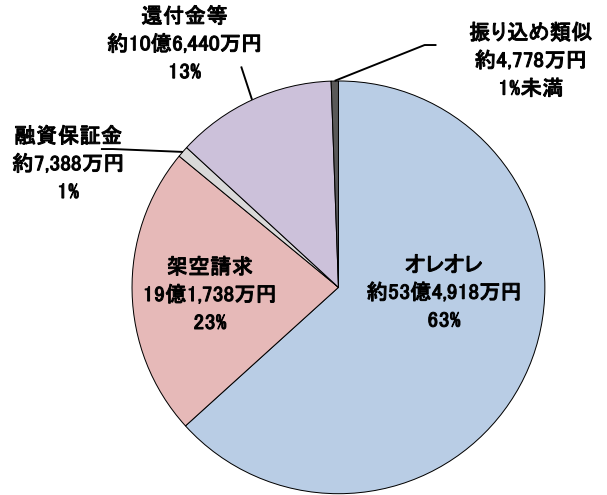
○ 平成30年の被害については、認知件数3,913件、被害額約84億5,262万円と前年と比べ認知件数は403件(12%)、被害額は約4億7,442万円(6%)増加した。

特殊詐欺：類型別（認知件数及び被害額）

【認知件数(3,913件)】

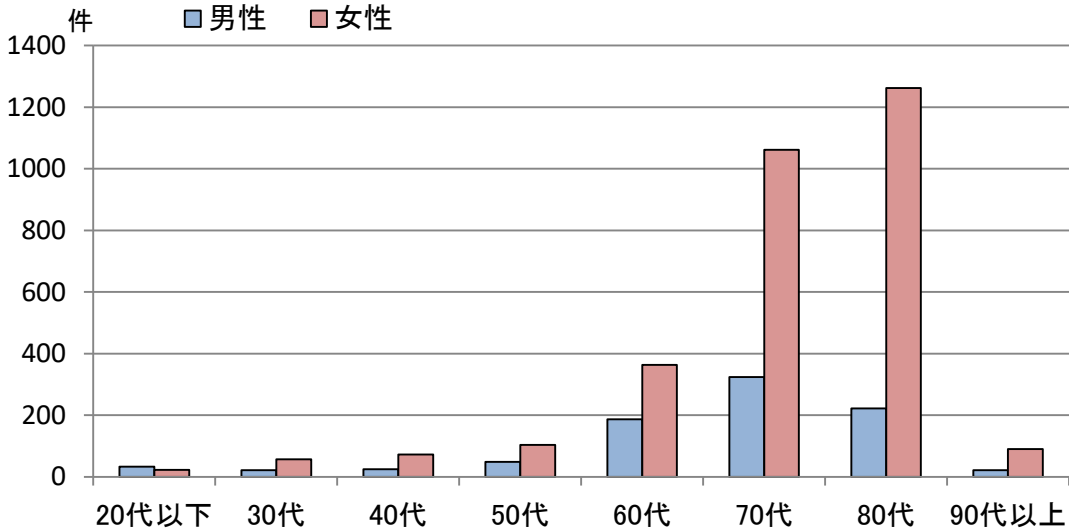


【被害額(約84億5,262万円)】



○ オレオレ詐欺が、認知件数の54%を占め、被害額の63%を占めている。

特殊詐欺：年代別・男女別認知件数

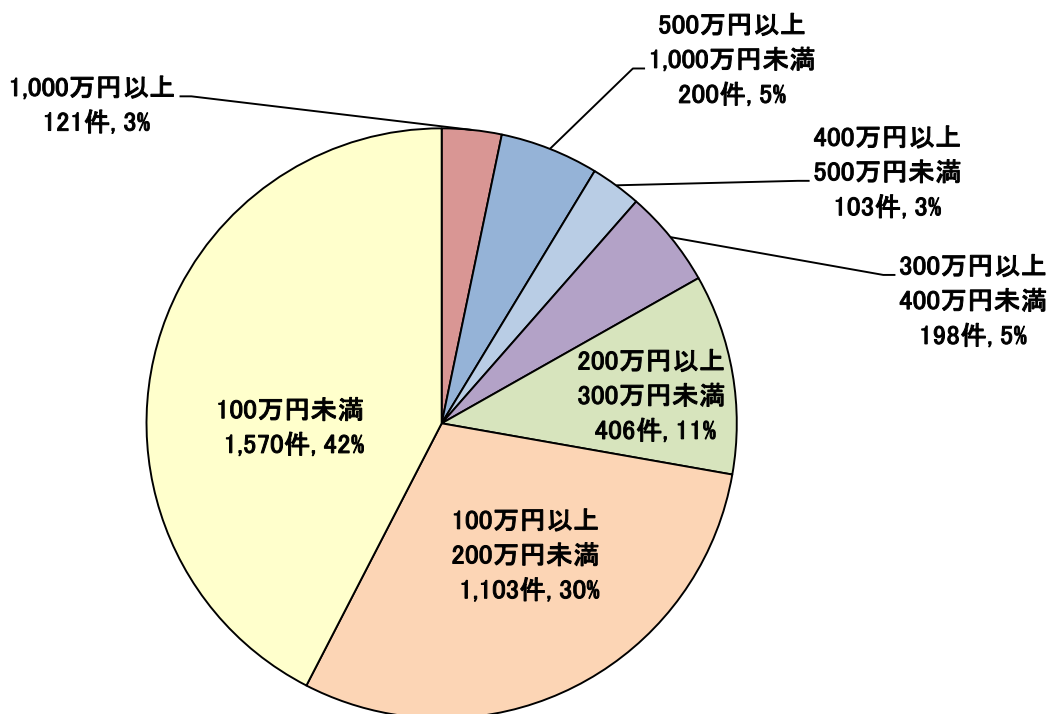


	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代以上	合計
男性	33	21	25	48	187	324	222	21	881
女性	23	57	72	104	363	1,061	1,262	90	3,032
合計	56	78	97	152	550	1,385	1,484	111	3,913

○ 被害者の76% (2,980人) が、70代以上、男女別では、77% (3,032人) が女性である。

特殊詐欺：被害額別認知件数（未遂を除く）

【認知(既遂)件数 3,701件】



○ 200万円未満の被害が72%を占める一方、1,000万円以上の高額被害も依然として多発している。

特殊詐欺：被害金等受取方法別被害状況

	振込	現金 手交	カード 手交	送付	電子 マネー	コンビニ 決済	ATM 決済	その他 不明	合計
平成30年	952	1,125	1,402	104	216	82	27	5	3,913
割合	24%	29%	36%	3%	6%	2%	1%	1%未満	100%
平成29年	774	1,104	1,096	52	385	66	7	26	3,510
割合	22%	31%	31%	1%	11%	2%	1%未満	1%	100%

※ 電子マネー ～ 有料サイト利用料名目等で、コンビニエンスストア等で販売されている電子マネーを購入させ、シリアル番号を聞き出す手口

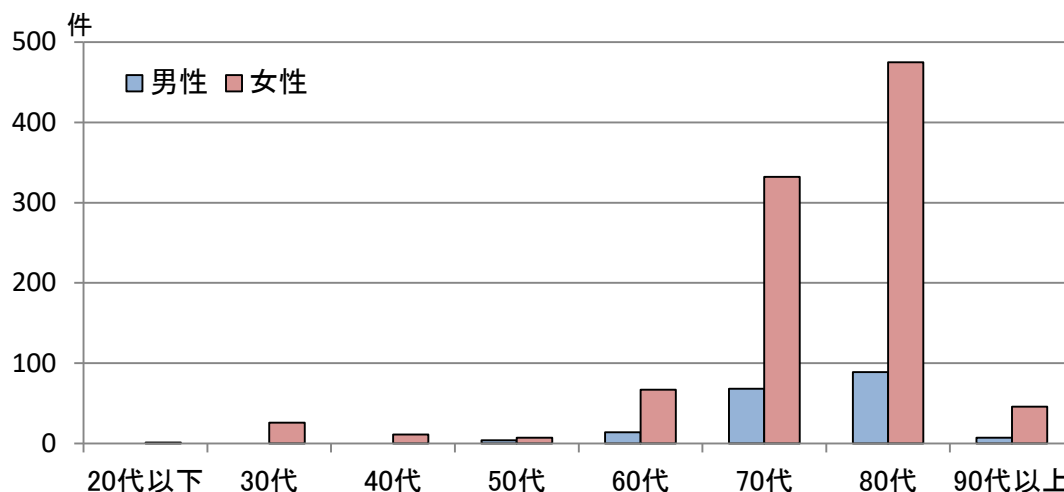
※ コンビニ決済 ～ コンビニエンスストアに設置されているマルチメディア端末等を操作させ、決済を代行させて現金をだまし取る手口（※セブンイレブンのみ端末はなく、窓口決済）

※ ATM決済 ～ Pay-easy（ペイジー）で、コンビニエンスストア以外の金融機関等に設置されているATM（現金自動預払機）等を利用させ、現金をだまし取る手口

○ 電子マネーによる被害が減少し、それ以外の被害が増加している。

(2) オレオレ詐欺

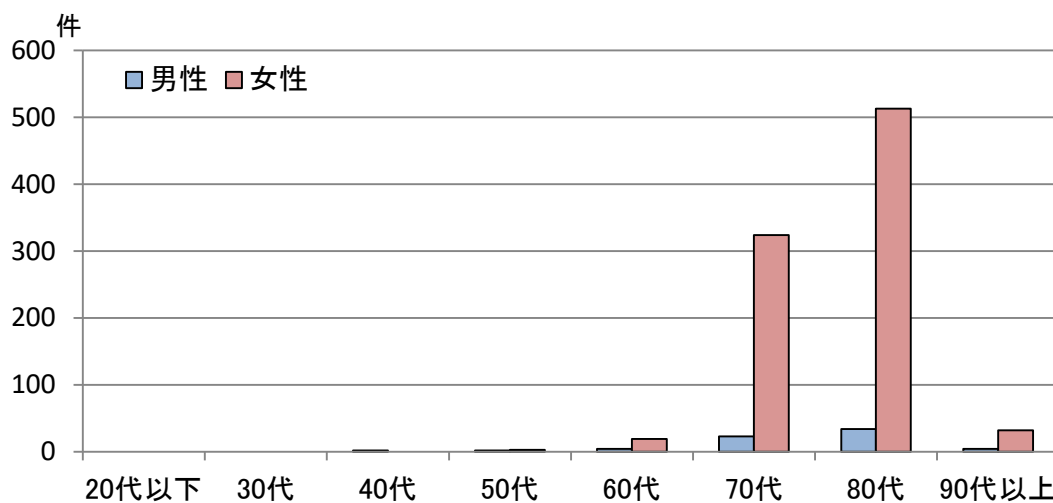
オレオレ詐欺(現金詐取)：年代別・男女別認知件数



	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代以上	合計
男性	0	0	0	4	14	68	89	7	182
女性	1	26	11	7	67	332	475	46	965
合計	1	26	11	11	81	400	564	53	1,147

- オレオレ詐欺(現金詐取)では、被害者の89%(1,017人)が70代以上、男女別では、84%(965人)が女性であり、いずれも、特殊詐欺全体(70代以上76%・女性77%)と比べ、高くなっている。

オレオレ詐欺(キャッシュカード等詐取)：年代別・男女別認知件数

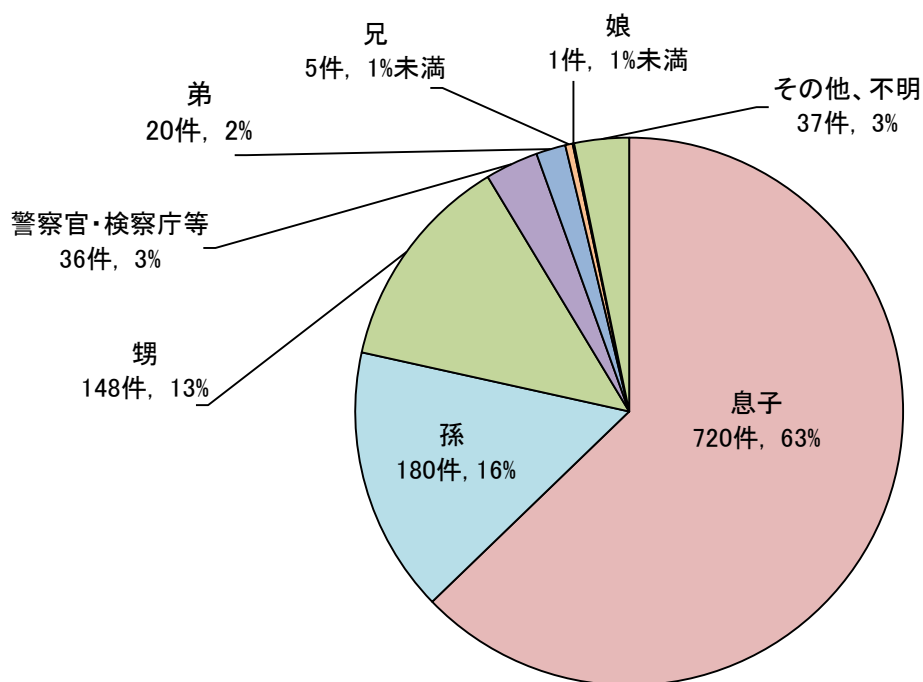


	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代以上	合計
男性	0	0	2	2	4	23	34	4	69
女性	0	0	0	3	19	324	513	32	891
合計	0	0	2	5	23	347	547	36	960

- オレオレ詐欺(キャッシュカード等詐取)では、被害者の97%(930人)が70代以上、男女別では、93%(891人)が女性であり、いずれも、現金詐取同様に特殊詐欺全体(70代以上76%・女性77%)と比べ、高くなっている。

オレオレ詐欺(現金詐取)：欺罔者(登場人物)別の認知件数

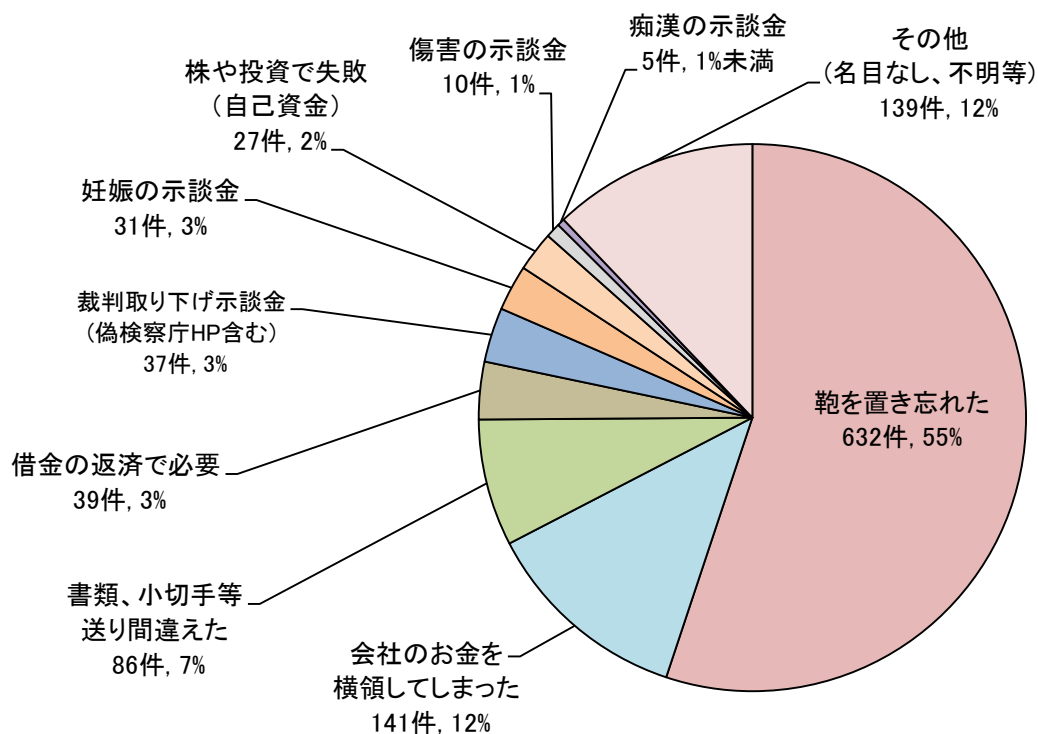
【認知件数1,147件】



- 息子等「親族」騙りが全体の94% (1,074人) を占め、特に息子騙りが63% (720人) で最も多くなっている。

オレオレ詐欺(現金詐取)：欺もう文言(だまし文句)別の認知件数

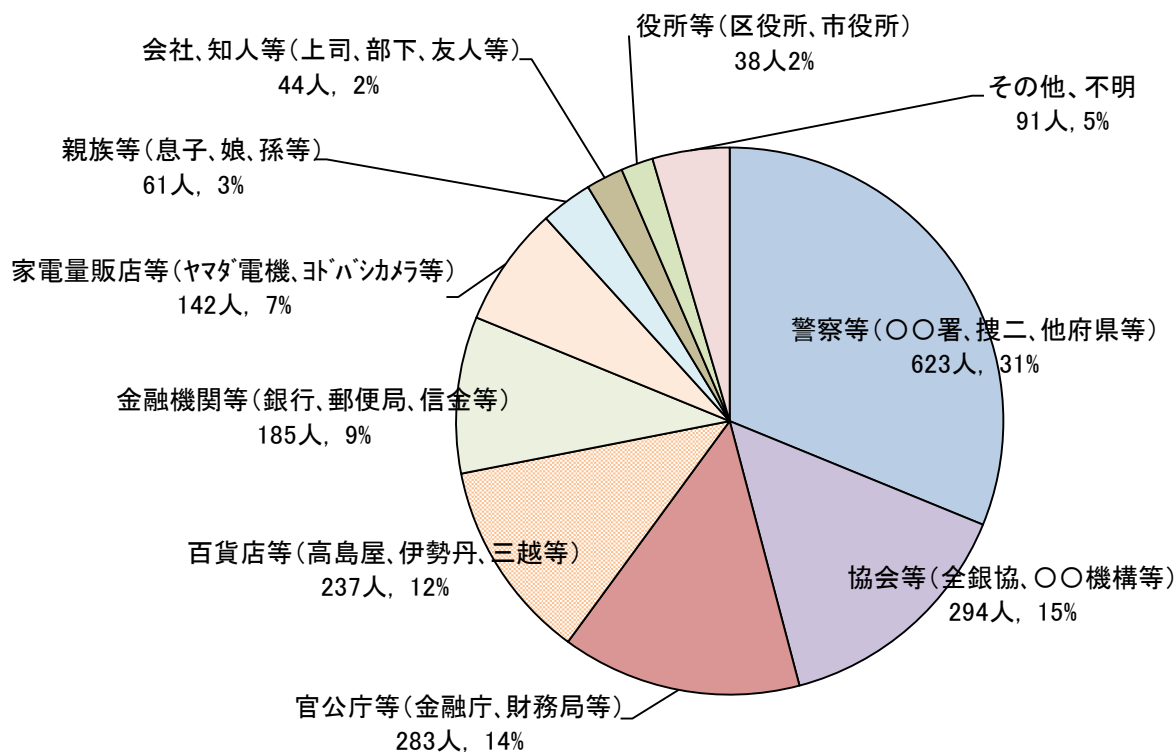
【認知件数1,147件】



- 「鞆を置き忘れた」を口実としたものが、55%を占めている。

オレオレ詐欺(キャッシュカード詐取): 欺罔者(登場人物)別の認知件数

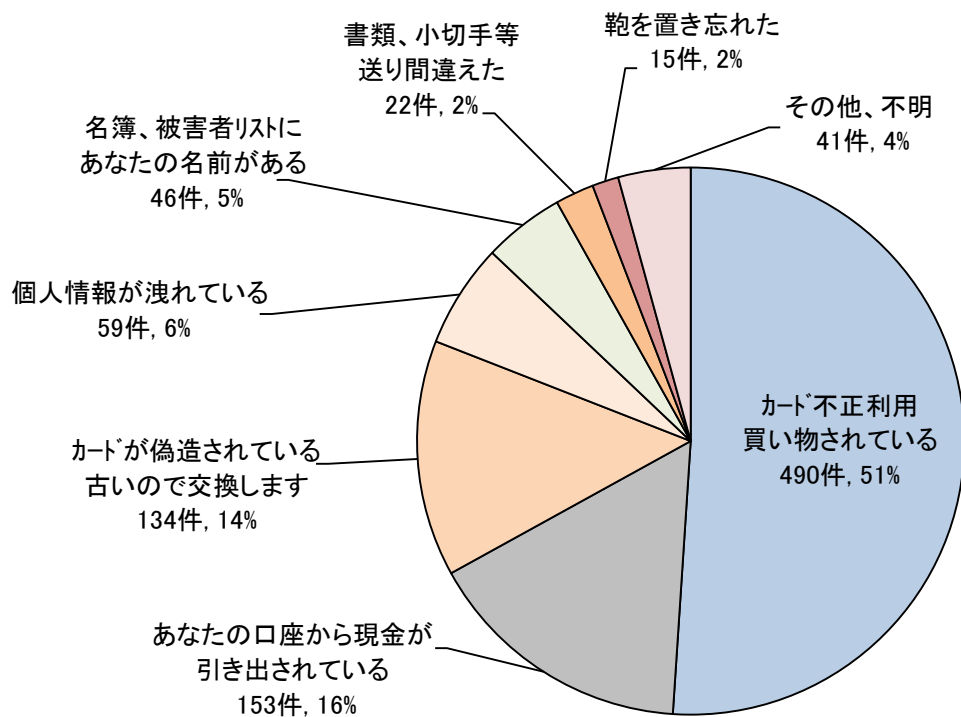
【認知件数960件・欺罔者(登場人物)1,998人】



○ 「警察等」を騙る者が31%(623人)と最も多く、続いて「協会等」を騙る者が15%(294人)となっている。

オレオレ詐欺(キャッシュカード等詐取): 欺もう文言(だまし文句)別の認知件数

【認知件数960件】



○ 「あなたのカードが利用されている」、「あなたのカードで買い物している人がいる」を口実としたものが、51%を占めている。

オレオレ詐欺：詐取別状況(現金・キャッシュカード)

	オレオレ詐欺						
	総数	現金詐取			キャッシュカード等詐取		
		鞆忘れ	その他	小計	警察官等騙り	その他	小計
件数	2,107	632	515	1,147	623	337	960
割合	100%	30%	24%	54%	30%	16%	46%
前年比	-5	-110	+184	+74	-8	-71	-79

※ 現金詐取

平成29年 1,073件 → 平成30年 1,147件 (+74件、+7%)

(※現金詐取=現金振込+現金手交+現金送付+その他不明等)

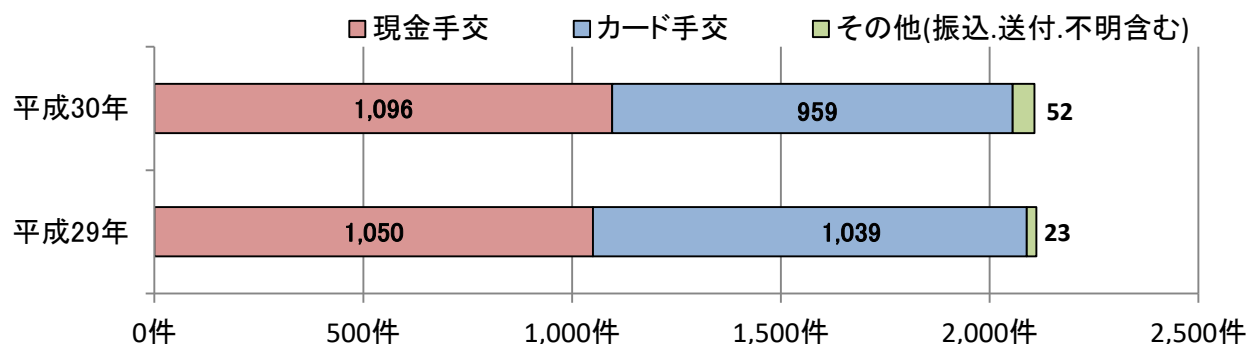
※ キャッシュカード等詐取

平成29年 1,039件 → 平成30年 960件 (-79件、-8%)

(※キャッシュカード等詐取=カード手交+カード送付)

オレオレ詐欺：被害金等受取方法別被害状況

		現金振込	現金手交	カード手交	現金送付	カード送付	電子マネー	その他不明	合計
		平成30年		51	1,096	959	0	1	0
	割合	2%	52%	46%	0%	1%未満	0%	0%	100%
平成29年		18	1,050	1,039	4	0	0	1	2,112
	割合	1%	50%	49%	1%未満	0%	0%	1%未満	100%



○ 受取方法別では、手交が98%を占めており、そのうち、現金手交が若干増加し、カード手交が若干減少した。

【オレオレ詐欺の主な手口】

○ 鞆忘れ

親族等を装い、「病院や駅、喫茶店のトイレなどに会社で必要な大事な物（小切手など）が入った鞆を置き忘れて（盗まれて）困っている。」等と言い、現金をだまし取る手口

○ 会社の金横領

親族等を装い、「会社のお金を使って株、又は投資に失敗してしまった。今日、監査が入る。穴埋めのお金を貸してくれないか。」等と言い、現金をだまし取る手口

○ 妊娠示談金

親族等を装い、「不倫相手の女性を妊娠させてしまい、慰謝料や弁護士費用を払わなければならない。」等と言い、現金をだまし取る手口

○ 傷害示談金

親族等を装い、「交通事故を起こしてしまい示談金が必要。」「相手に怪我をさせてしまい治療費や示談金が必要。」等と言い、現金をだまし取る手口

○ 会社の大事な書類、又は荷物等を違う場所に送り間違える

親族等を装い、「会社で使う大事な書類、又は荷物、郵便物などを違う場所に送り間違えてしまい、お金が必要になった。」等と言い、現金やカードをだまし取る手口

○ あなた名義のカードが犯罪に使われている

警察官、又は大手百貨店、量販店関係者を装い、「あなた名義のカードで買い物をしている者がいる。カードはお持ちですか。偽造されている可能性があるので、カードと暗証番号を変更しましょう。」等と言い、キャッシュカードやクレジットカードをだまし取る手口

【新たに発生している手口】

○ 偽検察庁ホームページに誘導

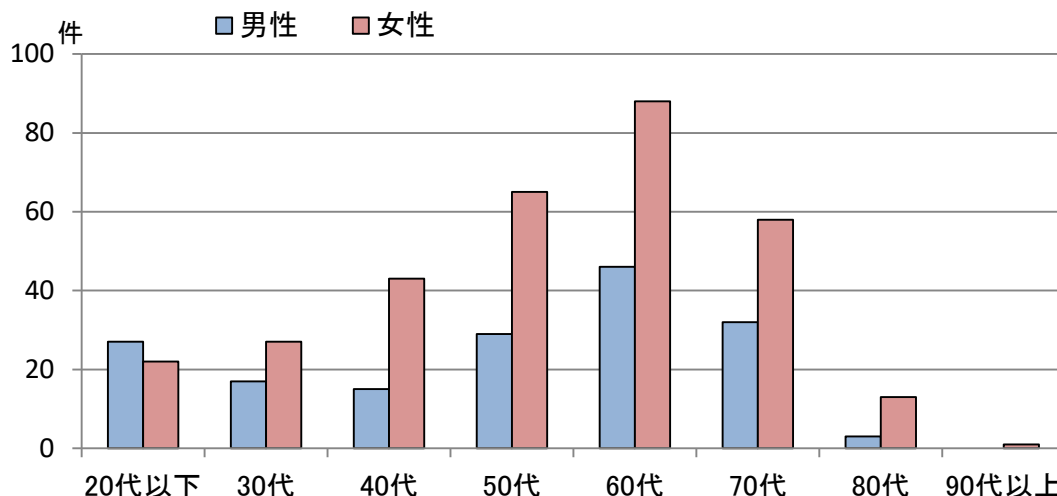
検察庁、警察庁、又は捜査一課・捜査二課などを装い、直接、携帯電話に電話してきて「あなたの口座が犯罪に利用され、被害者から告訴されている。指定するアドレスをインターネットで検索して確認してください。」などと、偽検察庁ホームページに誘導し、被害者が自身の名前を入力すると本人の名前が表示され、さらに「訴えを取り下げるにはお金が必要だ。」等と言い、現金をだまし取る手口

○ 郵便受け（ポスト）利用

警察官を装い、被害者から現金やキャッシュカードなどをだまし取る際、「我々警察とあなたが接触している姿を犯人が見ているかもしれません。犯人に気付かれないようにするためには逮捕するまで接触しないほうがいいでしょう。キャッシュカード（又は現金）は、封筒に入れて自宅のポストに入れて置いてください。後で取りに行きます。」等と言い、その後、数分の間に、犯人が回収していく手口

(3) 架空請求詐欺

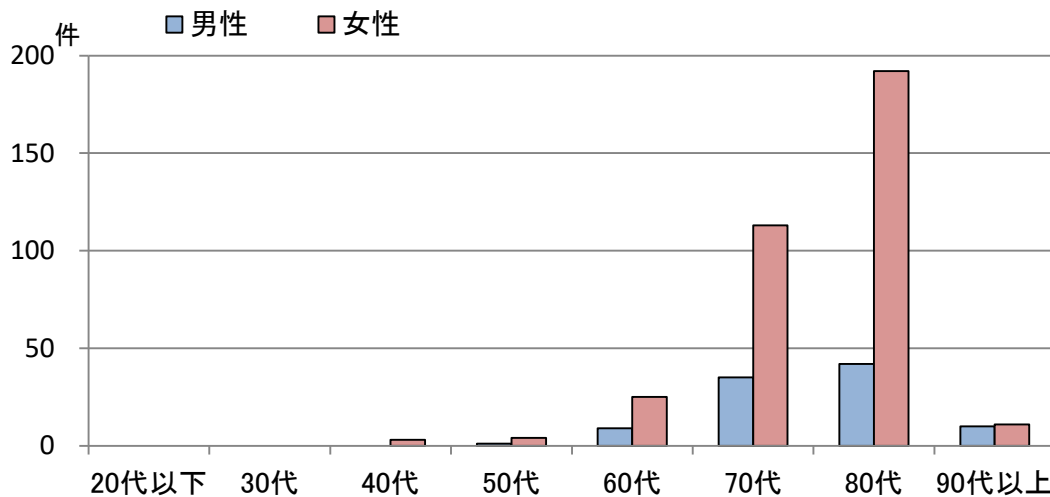
架空請求詐欺（現金詐取）：年代別・男女別認知件数



	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代以上	合計
男性	27	17	15	29	46	32	3	0	169
女性	22	27	43	65	88	58	13	1	317
合計	49	44	58	94	134	90	16	1	486

○ 架空請求詐欺（現金詐取）では、男女を問わず各年代で被害が発生しており、男女別では65%（317人）が女性である。

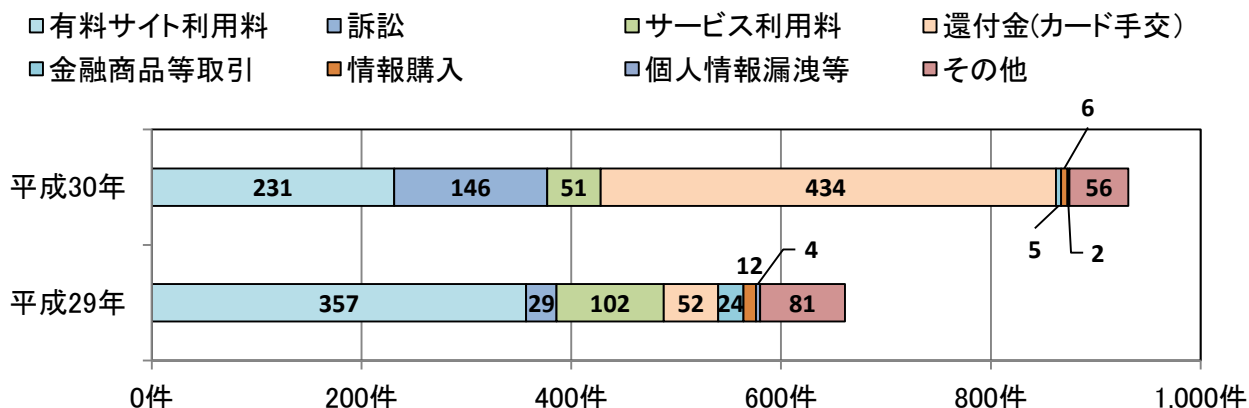
架空請求詐欺（キャッシュカード詐取）：年代別・男女別認知件数



	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代以上	合計
男性	0	0	0	1	9	35	42	10	97
女性	0	0	3	4	25	113	192	11	348
合計	0	0	3	5	34	148	234	21	445

○ 架空請求詐欺（キャッシュカード詐取）では、被害者の91%（403人）が70代以上、男女別では、78%（348人）が女性であり、いずれも、現金詐取とは異なり、特殊詐欺全体（70代以上76%・女性77%）と比べ、高くなっている。

架空請求詐欺：欺もう文言（だまし文句）別認知件数



- 架空請求詐欺は、有料サイト及びサービス利用料名目が減少し、特に、はがき利用による訴訟名目での現金送付及び医療費等の還付金名目でキャッシュカードを手交する被害が急激に増加している。

架空請求詐欺(現金詐取)：被害金等受取方法別被害状況

	振込 (ネットバンク含む)	現金 手交	現金 送付	電子 マネー	コンビニ 決済	ATM 決済	その他 不明	合計
平成30年	42	28	99	216	82	18	1	486
割合	9%	6%	20%	44%	17%	4%	1%未満	100%
平成29年	66	41	29	387	62	3	13	601
割合	11%	7%	5%	64%	10%	1%未満	2%	100%

- 前年と比べ、振込及び現金手交、電子マネーが減少したものの、送付及びコンビニ決済、ATM決済が増加している。

架空請求詐欺(キャッシュカード詐取)：被害金等受取方法別被害状況

	振込 (ネットバンク含む)	カード 手交	カード 送付	電子 マネー	コンビニ 決済	ATM 決済	その他不 明	合計
平成30年	0	443	2	0	0	0	0	445
割合	0%	99%	1%未満	0%	0%	0%	0%	100%
平成29年	0	57	3	0	0	0	0	60
割合	0%	95%	5%	0%	0%	0%	0%	100%

- 前年と比べ、カード手交による被害が急激に増加している。

架空請求詐欺：詐欺別状況(現金・キャッシュカード)

	架空請求詐欺							
	総数	現金詐取			キャッシュカード等詐取			
		有料サイト	その他	小計	有料サイト	還付金	その他	小計
件数	931	231	255	486	0	434	11	445
割合	100%	25%	27%	52%	0%	47%	1%	48%
前年比	+270	-124	+9	-115	-2	+382	+5	+385

※ 現金詐取

平成29年 601件 → 平成30年 486件 (-115件、-19%)

(※現金詐取=現金手交+振込+現金送付+電子マネー+コンビニ決済+ATM決済+その他)

※ キャッシュカード等詐取

平成29年 60件 → 平成30年 445件 (+385件、+664%)

(※キャッシュカード等詐取=カード手交+カード送付)

【架空請求詐欺の主な手口】

○ 医療費、又は累積保険料の還付金

電話で区、市役所職員及び銀行員等を騙り「医療費、又は累積保険料の過払い金がありますので、返金致します。今お持ちのキャッシュカードはどちらの銀行口座になりますか。それでは、こちらで手続き致します、〇〇銀行の職員がカードを取りに伺いますので、渡してください。」等と言い、キャッシュカードをだまし取る手口

○ 有料サイト利用料名目

メールで有料サイトの利用料金等が未納であると伝え、「利用料金や延滞料金等を支払わないと訴訟になる。」等と言い、現金をだまし取る手口

(特にコンビニエンスストア等で「Webマネー又はアマゾンギフト」等を購入させ、13桁のシリアル番号等を犯人に伝える『電子マネー』が多い。『電子マネー』には、ビットキャッシュやナナコギフト利用の被害も発生している。)

○ 訴訟示談金・和解金・調査費(はがき)

「総合消費料金に関する訴訟最終告知のお知らせ」などと記載のはがき等を投函した上で、「裁判取り下げ最終期日を経て訴訟を開始させていただきます。ご連絡なき場合原告側の主張が受理され、動産、不動産物の差し押さえを強制的に履行させていただきます。」等と言い、現金をだまし取る手口

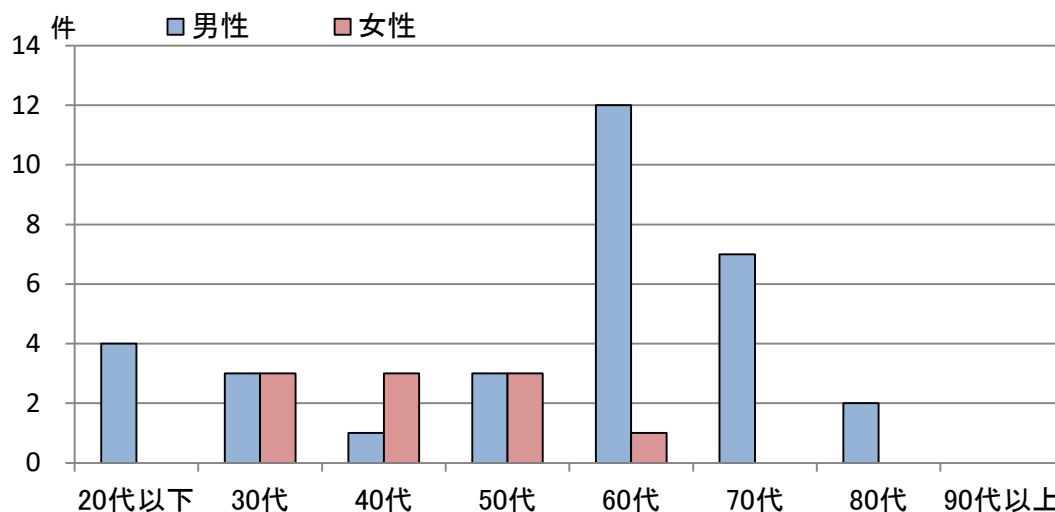
(特に、はじめに弁護士費用と称して、コンビニエンスストア等のレジ及びマルチメディア端末等で、被疑者の買物に対する決済代行である『コンビニ決済』をさせた後、更に示談金、和解金等と称して、現金送付をさせる複合の被害が多い。)

※ 当初は、法務省管轄支局及び国民訴訟お客様管理センターを発送元とする

「はがき」が主流であったが、地方裁判所管理局に移行している傾向もみられる。

(4) 融資保証金詐欺

融資保証金詐欺：年代別・男女別認知件数

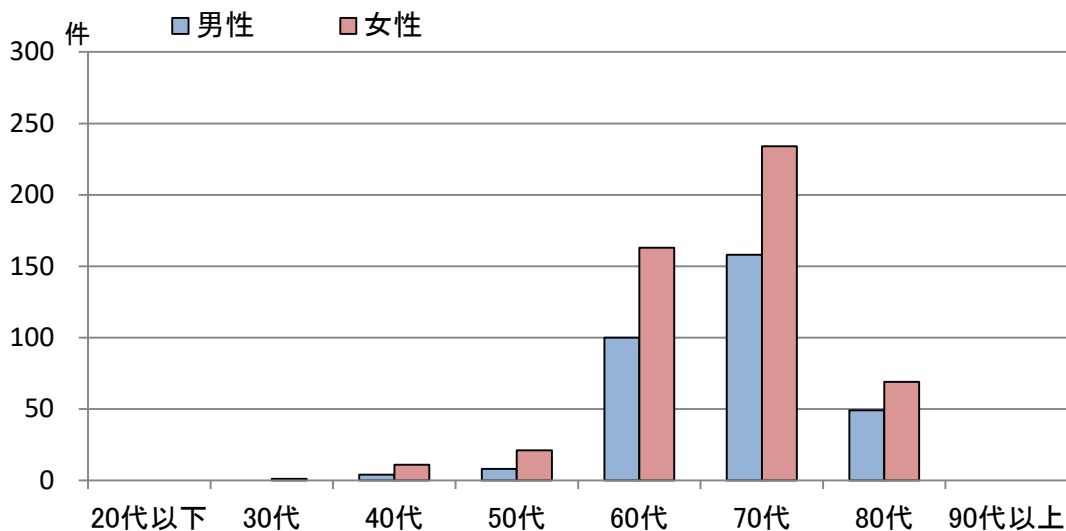


	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代以上	合計
男性	4	3	1	3	12	7	2	0	32
女性	0	3	3	3	1	0	0	0	10
合計	4	6	4	6	13	7	2	0	42

- 20代から70代までの各年代で被害が発生しており、男女別では、76%（32人）が男性である。

(5) 還付金等詐欺

還付金等詐欺：年代別・男女別認知件数

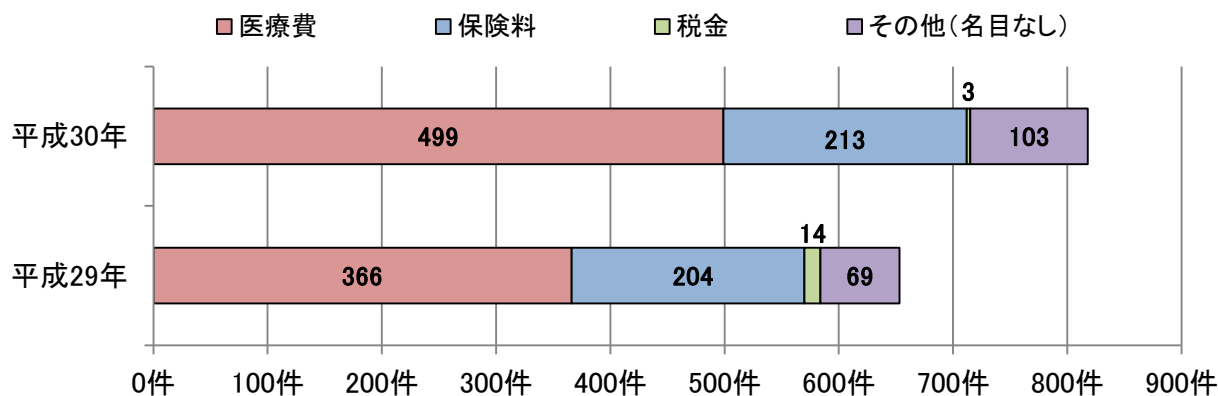


	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代以上	合計
男性	0	0	4	8	100	158	49	0	319
女性	0	1	11	21	163	234	69	0	499
合計	0	1	15	29	263	392	118	0	818

- 被害者の94%（773人）は60代以上で、男女別では、61%（499人）が女性で、39%（319人）が男性であり、前年に比べ、男性女性、共に増加した。

還付金等詐欺：還付名目別認知件数

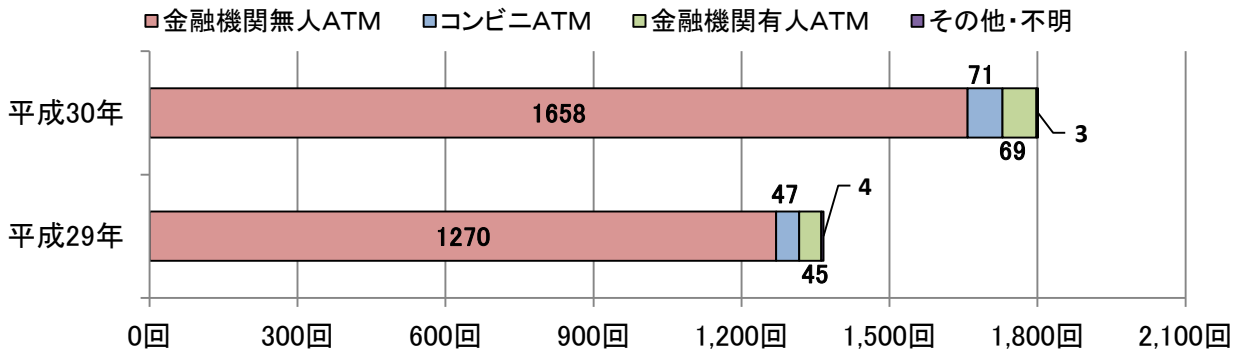
	医療費	保険料	税金	その他	合計
平成30年	499	213	3	103	818
割合	61%	26%	1%未満	13%	100%
平成29年	366	204	14	69	653
割合	56%	31%	2%	11%	100%



- 医療費の還付名目が61%を占め、最も多くなっている。

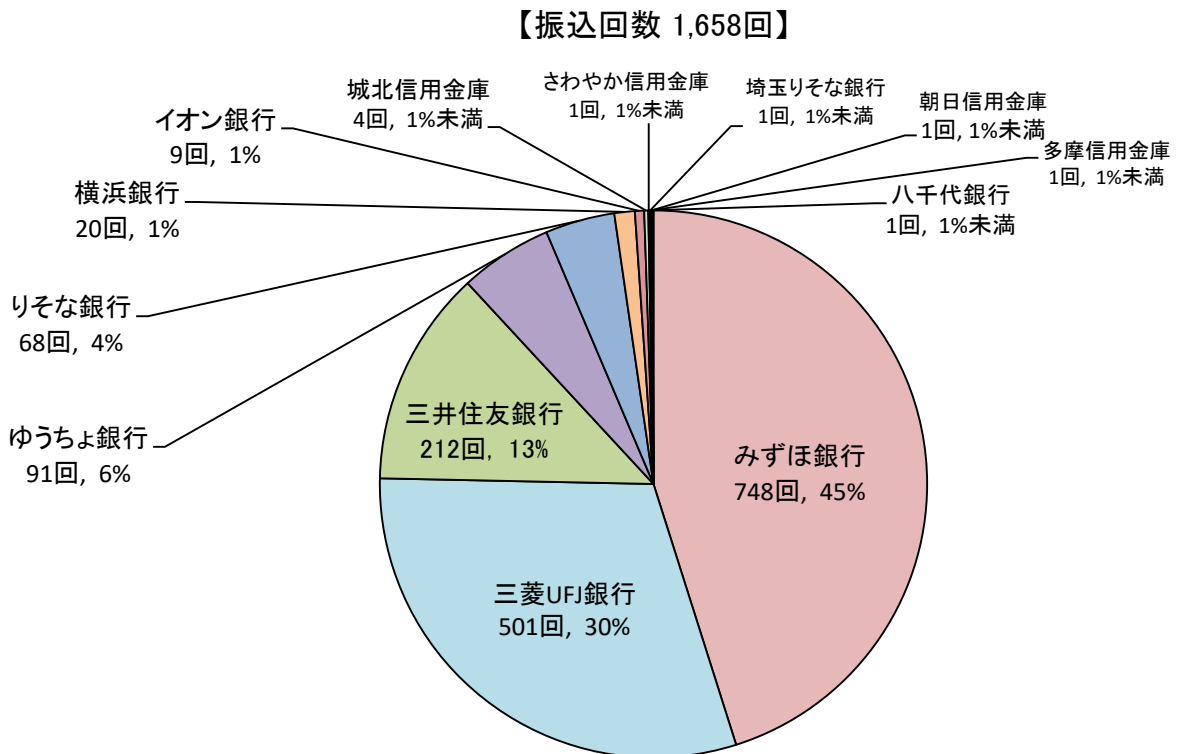
還付金等詐欺：場所別振込回数

	金融機関 無人ATM	コンビニ ATM	金融機関 有人ATM	その他 不明	合 計
平成30年	1,658	71	69	3	1,801
割合	92%	4%	4%	1%未満	100%
平成29年	1,270	47	45	4	1,366
割合	93%	3%	3%	1%	100%



- 還付金等詐欺における振込回数は、前年に比べ、435回増加している。
- 「金融機関無人ATM」での振込みは、全体の92%を占めている。
- 金融機関無人ATM設置場所別の振込回数では、駅（構内及び駅前）が77%（1,270回）と最も多く、次にショッピングモール内の15%（248回）となっている。

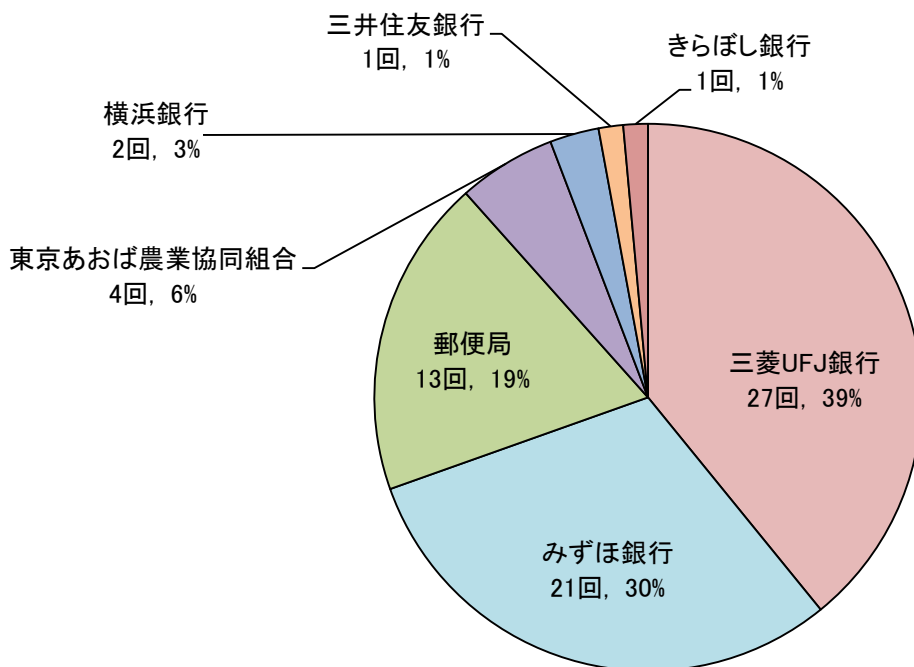
還付金等詐欺：場所別振込回数（金融機関 無人ATM別）



- 「無人ATM」の金融機関別では、みずほ銀行45%（748回）が最も多く、続いて三菱UFJ銀行30%（501回）となっている。

還付金等詐欺：場所別振込回数（金融機関 有人ATM別）

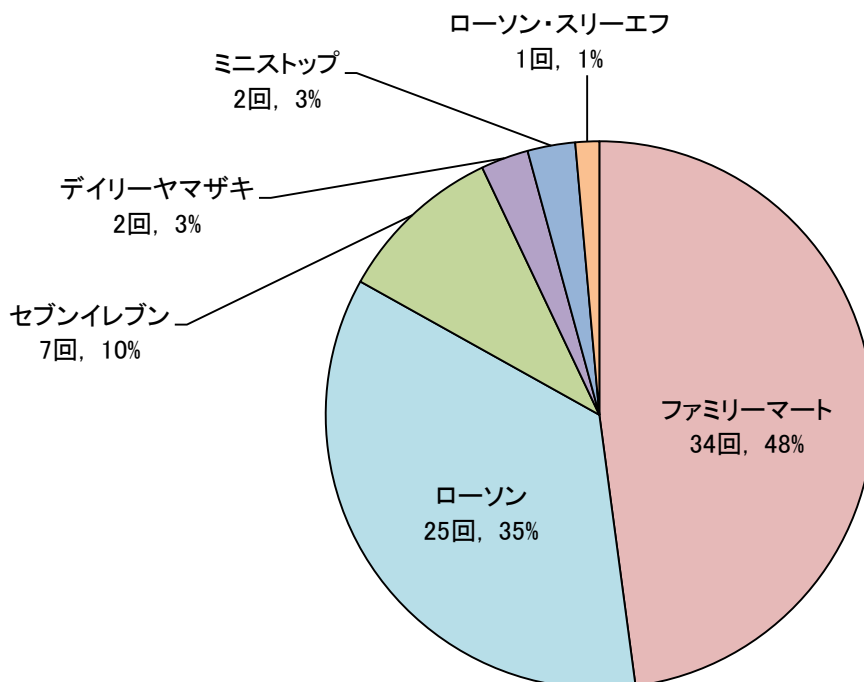
【振込回数 69回】



○ 「有人ATM」の金融機関別では、三菱UFJ銀行39%（27回）が最も多く、続いてみずほ銀行30%（21回）となっている。

還付金等詐欺：場所別振込回数（コンビニ別）

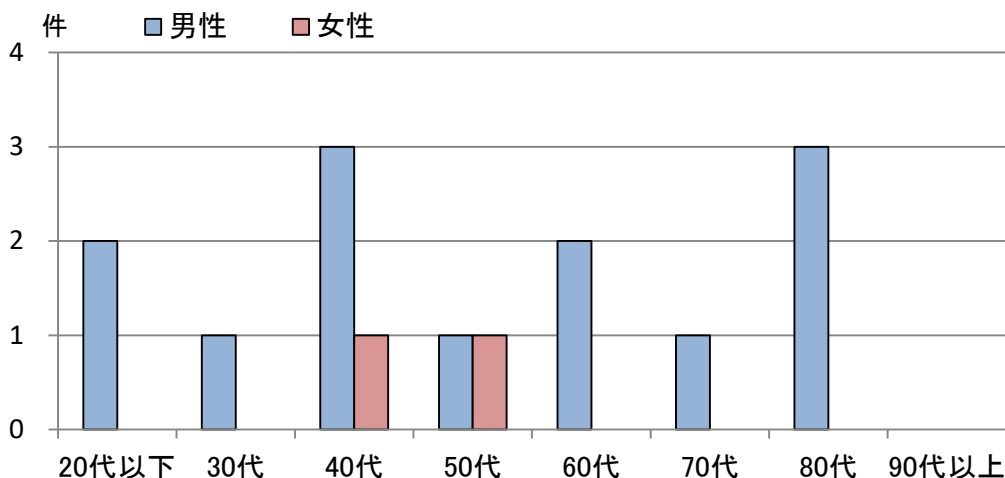
【認知件数 71回】



○ 「コンビニATM」では、ファミリーマートが48%（34回）と最も多く、続いてローソンが35%（25回）となっている。

(6) 振り込め類似詐欺

振り込め類似詐欺：年代別・男女別認知件数

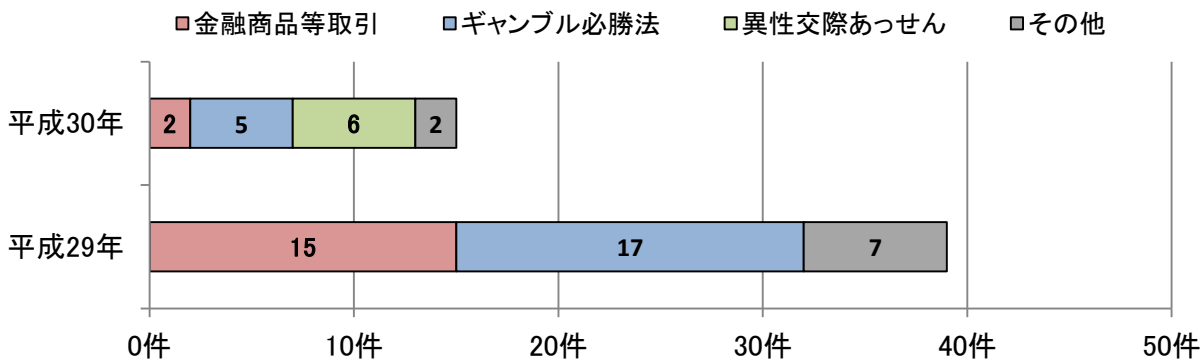


	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代以上	合計
男性	2	1	3	1	2	1	3	0	13
女性	0	0	1	1	0	0	0	0	2
合計	2	1	4	2	2	1	3	0	15

○ 被害者の男女別では、87%（13人）が男性である。

振り込め類似詐欺：欺もう文言（だまし文句）別認知件数

	金融商品等取引	ギャンブル必勝法	異性交際あつせん	その他	合計
平成30年	2	5	6	2	15
割合	13%	33%	40%	13%	100%
平成29年	15	17	0	7	39
割合	38%	44%	0%	18%	100%



○ 振り込め類似詐欺は、前年に比べ、減少している。

○ 金融商品等取引及びギャンブル必勝法名目が、減少したものの、異性交際あつせん名目が増加し、全体の40%を占めている。

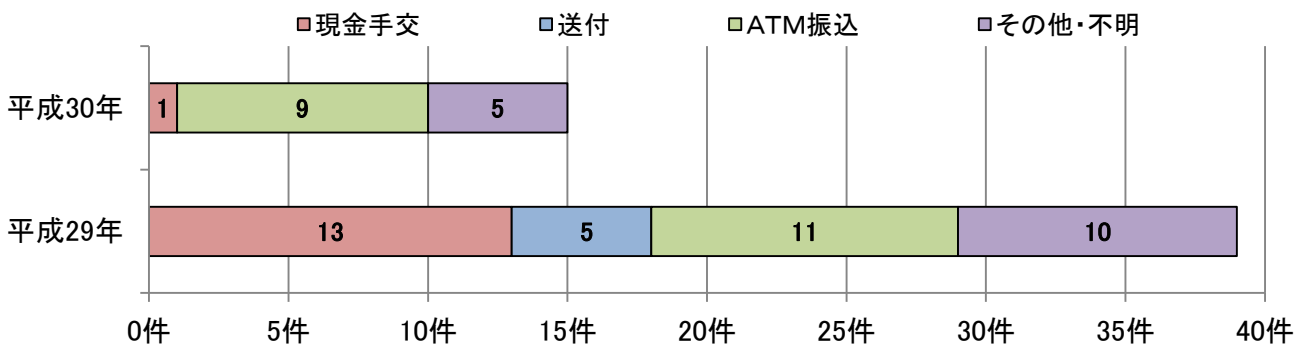
振り込め類似詐欺：年代別認知件数

欺もう文言	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代以上	合計
金融商品等取引	0	0	0	0	0	1	1	0	2
割合	0%	0%	0%	0%	0%	50%	50%	0%	100%
ギャンブル必勝法	1	0	2	0	0	0	2	0	5
割合	20%	0%	40%	0%	0%	0%	40%	0%	0%
異性交際あっせん	1	0	2	1	2	0	0	0	6
割合	17%	0%	33%	17%	33%	0%	0%	0%	100%
その他	0	1	0	1	0	0	0	0	2
割合	0%	50%	0%	50%	0%	0%	0%	0%	100%

- 金融商品等取引名目は70代以上で、ギャンブル必勝法名目及び異性交際あっせん名目では年代に関係なく被害が発生している。

振り込め類似詐欺：被害金等受取方法別被害状況

	現金手交	送付	ATM振込	その他・不明	合計
平成30年	1	0	9	5	15
割合	7%	0%	60%	33%	100%
平成29年	13	5	11	10	39
割合	33%	13%	28%	26%	100%



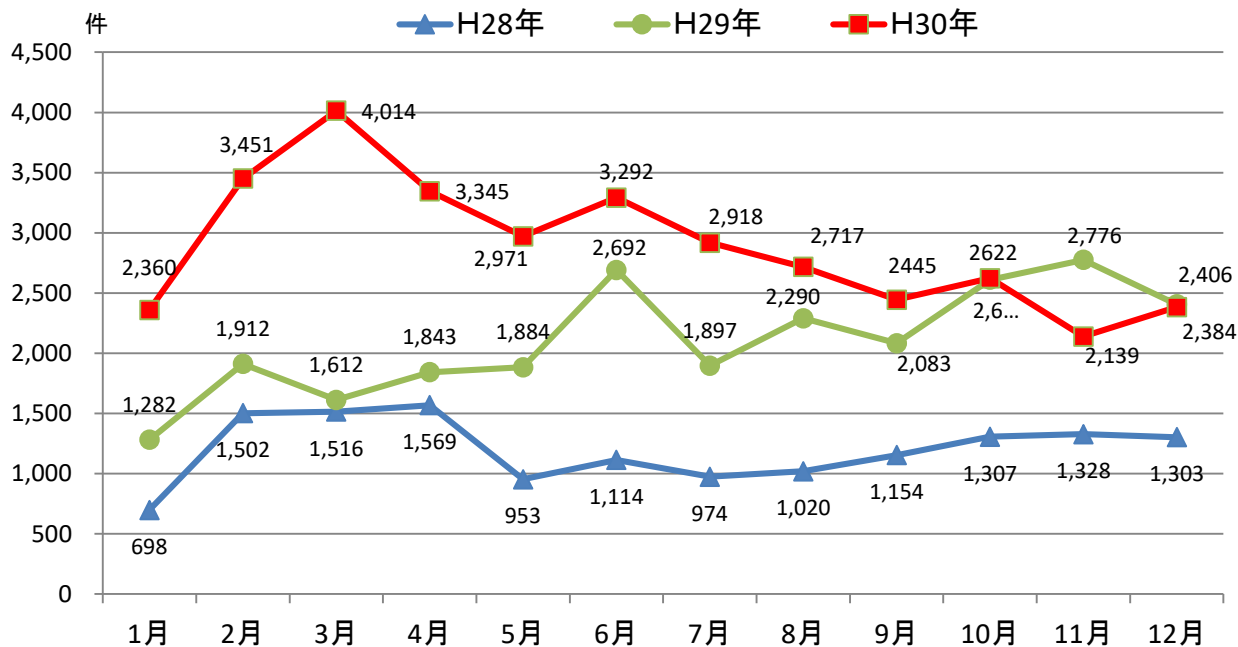
- 振り込め類似詐欺は、全体的に減少している。

【振り込め類似詐欺の主な手口】

- **異性交際のおっせん**
異性交際をおっせんする等の虚偽の情報を提供し、会員登録料や保証金等の名目で現金をだまし取る手口
- **ギャンブル必勝法情報提供**
冊子等により、虚偽の情報を提供し、情報料や会員登録料等の名目で現金をだまし取る手口
- **金融商品等取引**
実際には価値がない有価証券等について、電話やダイレクトメールにより虚偽の情報を提供し有価証券、又は有価証券のようなものを交付し、購入すれば利益が得られる等の名目及び名義貸しによるトラブル解決のための費用名目で現金をだまし取る手口

(7) 犯行予兆電話の通報状況

【犯行予兆電話通報件数（平成28年～平成30年）】



○ 平成30年の犯行予兆電話通報件数は、34,658件であり、前年と比べ急増している。

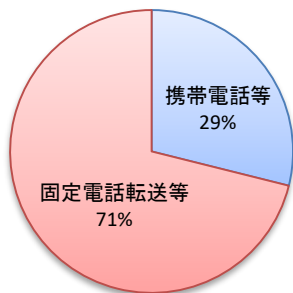
平成30年 → 34,658件

平成29年 → 25,911件

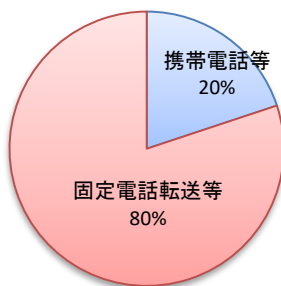
平成28年 → 15,010件

(8) 犯行利用電話の種別

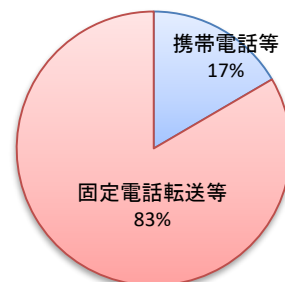
平成28年



平成29年



平成30年



■ 携帯電話等 ■ 固定電話転送等

■ 携帯電話等 ■ 固定電話転送等

■ 携帯電話等 ■ 固定電話転送等

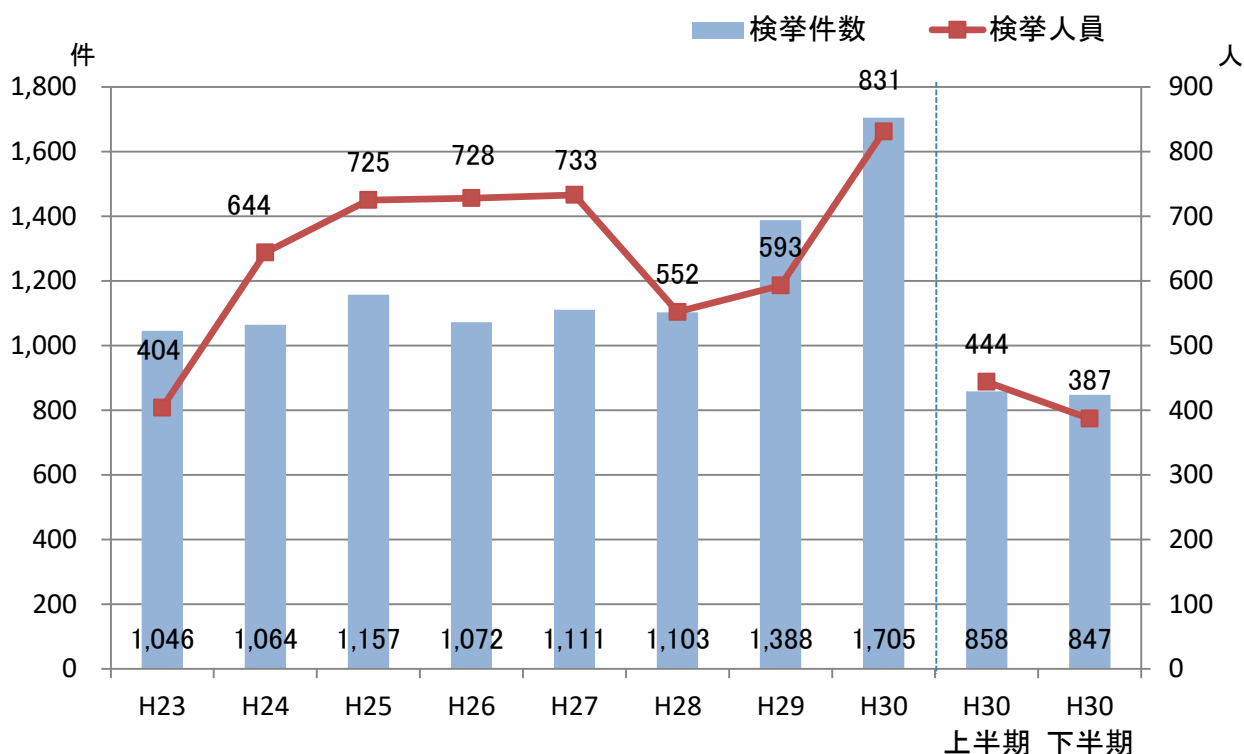
○ 平成30年における犯行利用電話受理件数の割合は、固定電話転送等83%、携帯電話等17%であり、過去3年から比べると、年々携帯電話等が減少し、固定電話転送等が増加している。

※ **固定電話転送等**とは、犯人が使用している固定電話や携帯電話からの発信を、インターネット上で電話転送し、被害者の電話に掛かってくる電話番号が『03、又は06』等からはじまる全国の固定電話番号や『050』からはじまる電話番号で着信表示させるもの。

2 検挙状況

(1) 本犯検挙状況

特殊詐欺本犯：検挙状況



特殊詐欺本犯：類型別検挙状況

		オレオレ	架空請求 (架空恐喝含む)	融資保証金	還付金等	振り込め類似	合計
検挙件数	平成30年	1,099	381	109	78	38	1,705
	平成29年	699	381	67	125	116	1,388
	前年比	+400	±0	+42	-47	-78	+317
	増減率	+57%	—	+63%	-38%	-67%	+23%
検挙人員	平成30年	592	190	9	24	16	831
	平成29年	398	132	14	15	34	593
	前年比	+194	+58	-5	+9	-18	+238
	増減率	+49%	+44%	-36%	+60%	-53%	+40%

○ 前年と比べ、検挙件数及び検挙人員は、共に増加している。

特殊詐欺本犯：役割別検挙人員

	首魁	指示役	だまし役	出し子	受け子	見張り役	リクルーター	その他	合計
平成30年	9	45	121	26	461	42	82	45	831
割合	1%	5%	15%	3%	55%	5%	10%	5%	100%
前年比	+1	+16	-5	±0	+126	+25	+46	+29	+238

- 「受け子」の検挙人員は、全体の55%を占めている。
- 犯行拠点（アジト）の摘発は、32箇所、103人で前年と比べ、摘発箇所は2箇所、検挙人員は14人減少している。

特殊詐欺本犯：少年・暴力団・外国人別検挙人員

	成人	少年	総検挙人員	暴力団	外国人
平成30年	593	238	831	271	44
割合	71%	29%	100%	33%	5%
前年比	+117	+121	+238	+66	+34

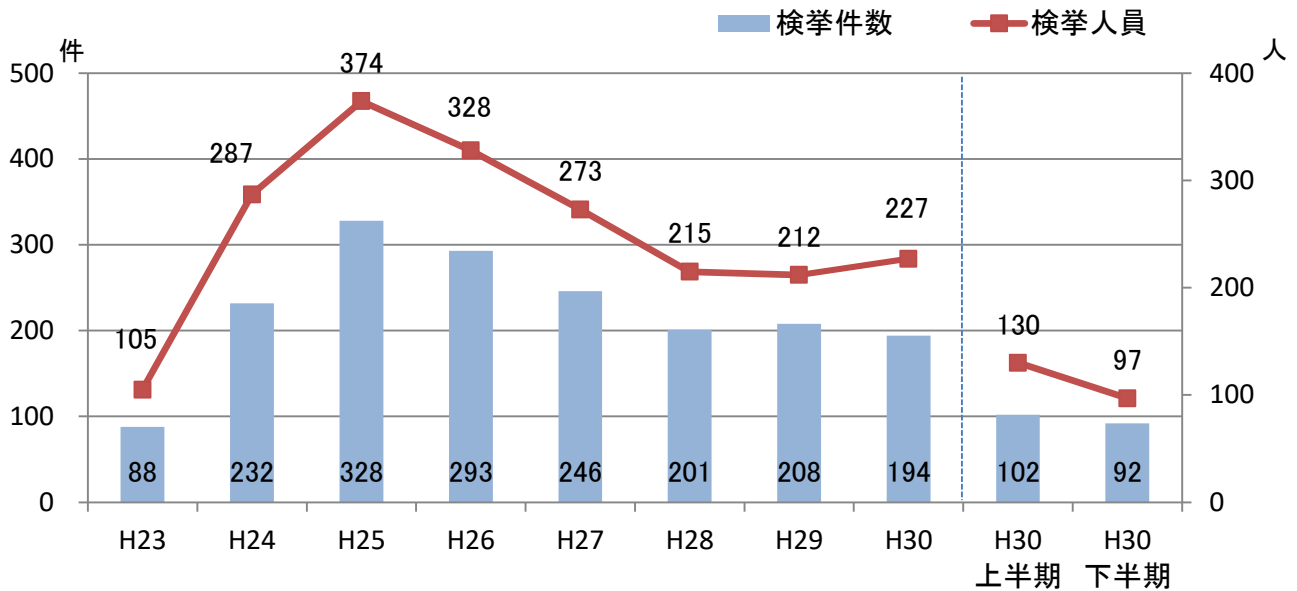
- 検挙人員のうち、238人（29%）が少年で、271人（33%）が暴力団構成員等、44人（5%）が外国人で前年と比べ、少年は121人、暴力団構成員等は66人、外国人は34人増加している。

特殊詐欺本犯：年代別検挙人員

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	合計
平成30年	238	367	134	51	32	9	0	831
割合	29%	44%	16%	6%	4%	1%	0%	100%
前年比	+121	+102	-13	+7	+19	+4	-2	+238

- 検挙被疑者は、10代から30代で739人で全体の89%を占め、60代以上の被疑者は9人（1%）となっている。
- 少年（10代）の被疑者の内訳は「受け子」が172人（72%）、「見張り役」が19人（8%）となっている。

現場設定（だまされた振り作戦）による検挙状況



- だまされた振り作戦による「現場設定検挙」は、前年と比べ、検挙件数は14件減少したものの、検挙人員は15名増加している。

(2) 助長犯検挙状況

特殊詐欺助長犯：類型別検挙状況

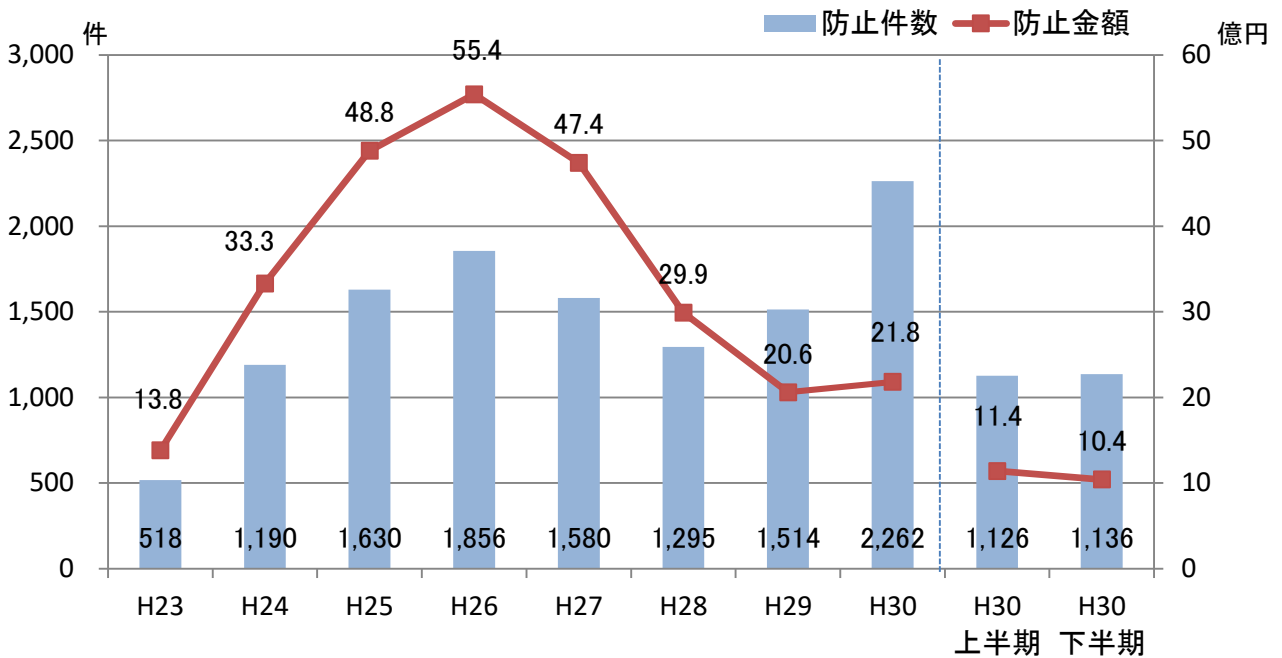
		口座開設詐欺	携帯電話契約詐欺	犯罪収益移転防止法違反	携帯電話不正利用防止法違反	合計
検挙件数	平成30年	110	44	333	7	494
	平成29年	141	48	292	8	489
	前年比	-31	-4	+41	-1	+5
	増減率	-22%	-8%	+14%	-13%	+1%
検挙人員	平成30年	74	39	353	6	472
	平成29年	96	51	313	10	470
	前年比	-22	-12	+40	-4	+2
	増減率	-23%	-24%	+13%	-40%	+1%未満

- 助長犯全体の検挙件数及び検挙人員は増加している。
- 口座開設、携帯電話契約、携帯電話不正利用防止法違反の検挙件数及び検挙人員は、共に減少しているが、犯罪収益移転防止法違反の検挙件数及び検挙人員は、共に増加している。

3 未然防止等の状況

(1) 未然防止（全体）状況

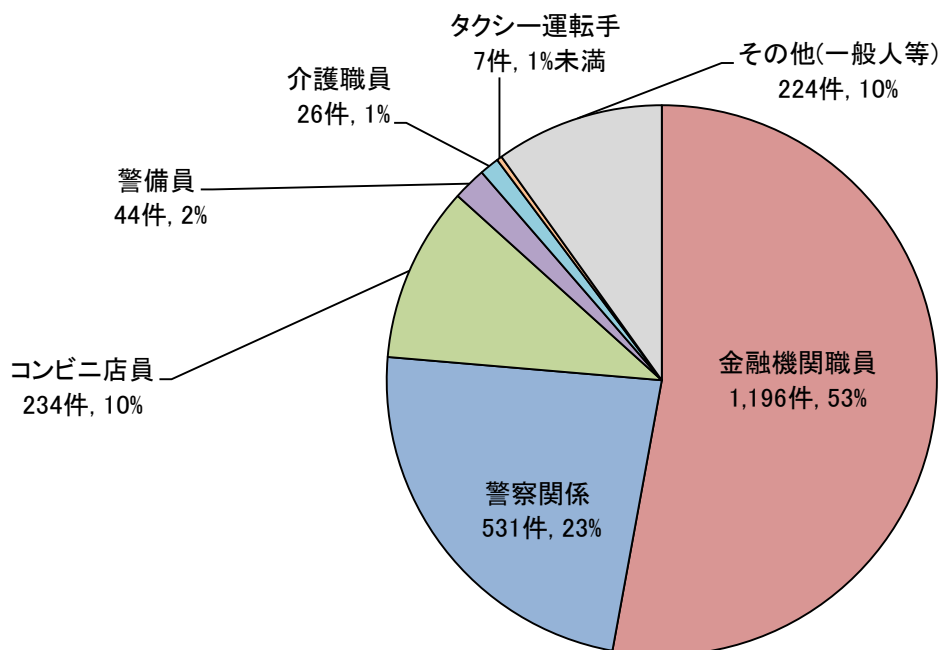
特殊詐欺：未然防止の推移



○ 前年に比べ、未然防止件数及び防止金額は増加している。

未然防止者職種別未然防止状況

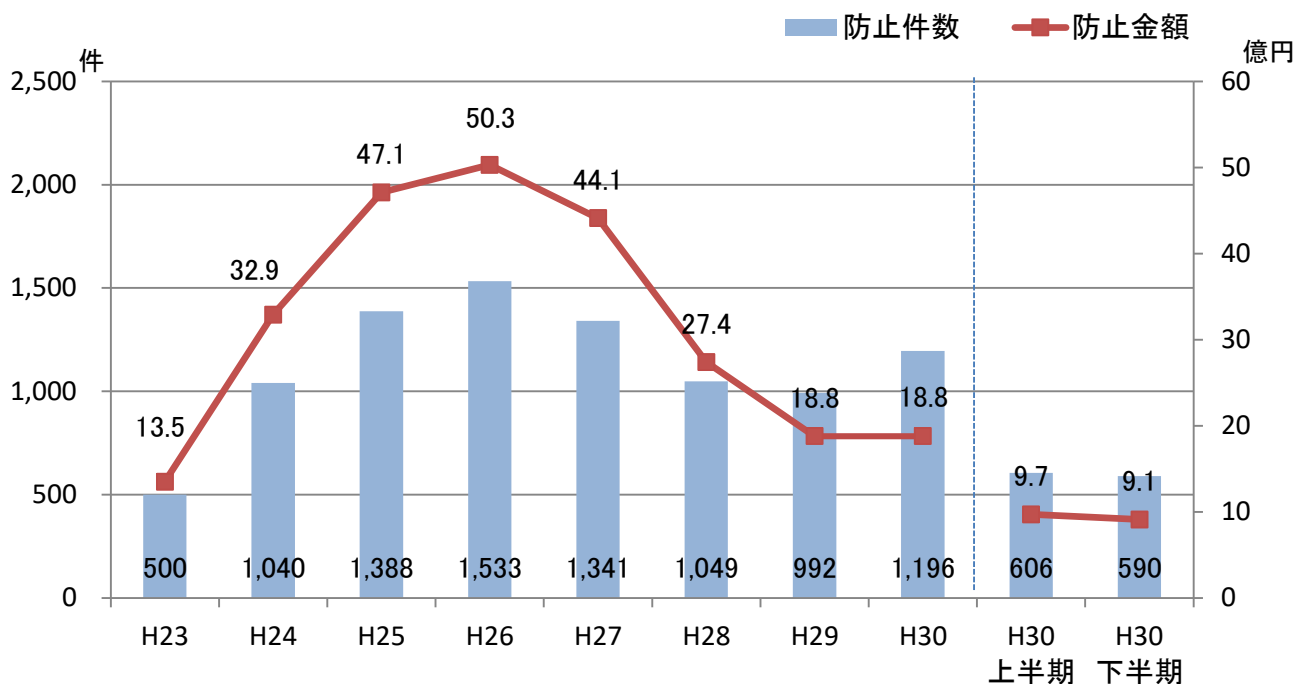
【未然防止件数 2,262件】



○ 金融機関職員による未然防止が、全体の53%を占めている。

(2) 金融機関による未然防止状況

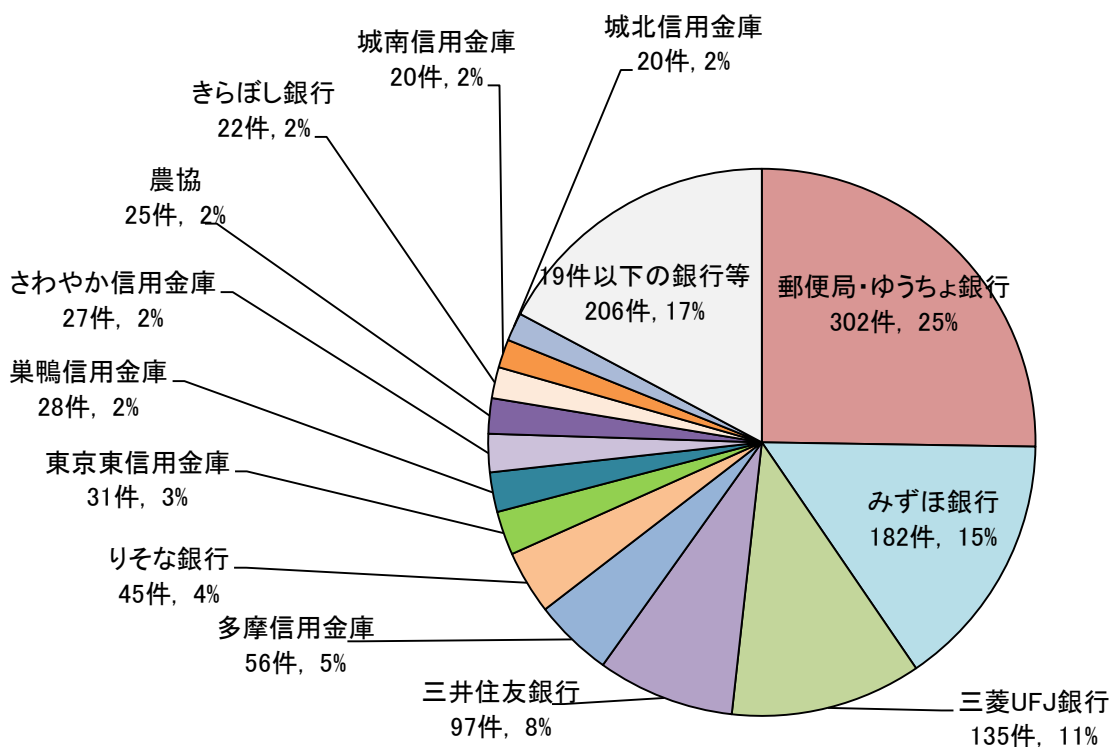
金融機関による未然防止の推移



○ 前年と比べ、未然防止件数は増加し、防止金額はほぼ変わらなかった。

未然防止状況：金融機関別

【未然防止件数 1,196件】

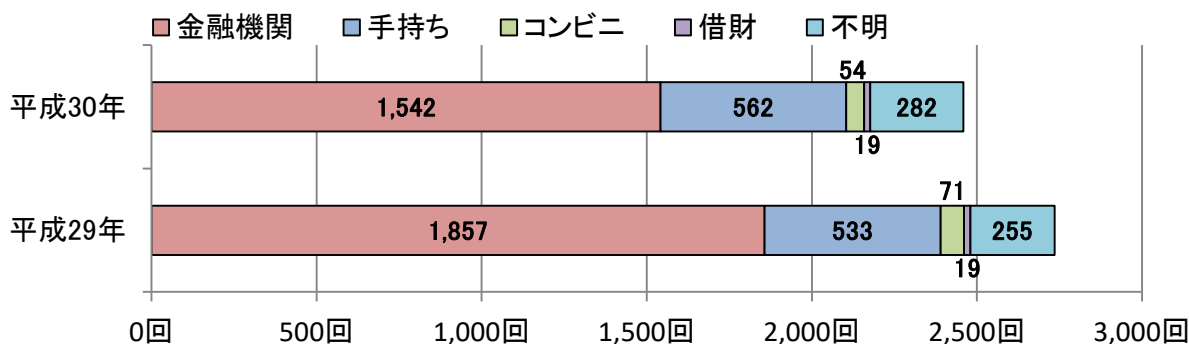


○ 金融機関別での未然防止は、郵便局・ゆうちょ銀行の25% (302件) が最も多く、続いてみずほ銀行15% (182件) となっている。

(3) 被害金の調達（全体）状況

特殊詐欺：被害金の方法別調達状況

	金融機関	コンビニ	借財	手持ち	不明	合計
平成30年	1,542	54	19	562	282	2,459
割合	63%	2%	1%	23%	11%	100%
平成29年	1,857	71	19	533	255	2,735
割合	69%	3%	1%	19%	9%	100%

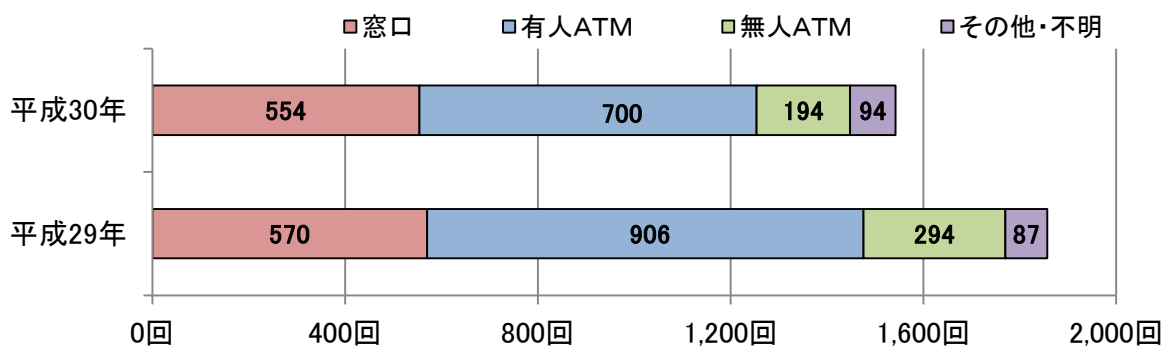


○ 金融機関での調達は減少しているものの、全体の63%を占め、最も多くなっている。

(4) 金融機関における調達状況

金融機関における被害金の方法別調達状況

	窓口	A T M			その他不明	合計
		有人ATM	無人ATM	小計		
平成30年	554	700	194	894	94	1,542
割合	36%	45%	13%	58%	6%	100%
平成29年	570	906	294	1,200	87	1,857
割合	30%	49%	16%	65%	5%	100%

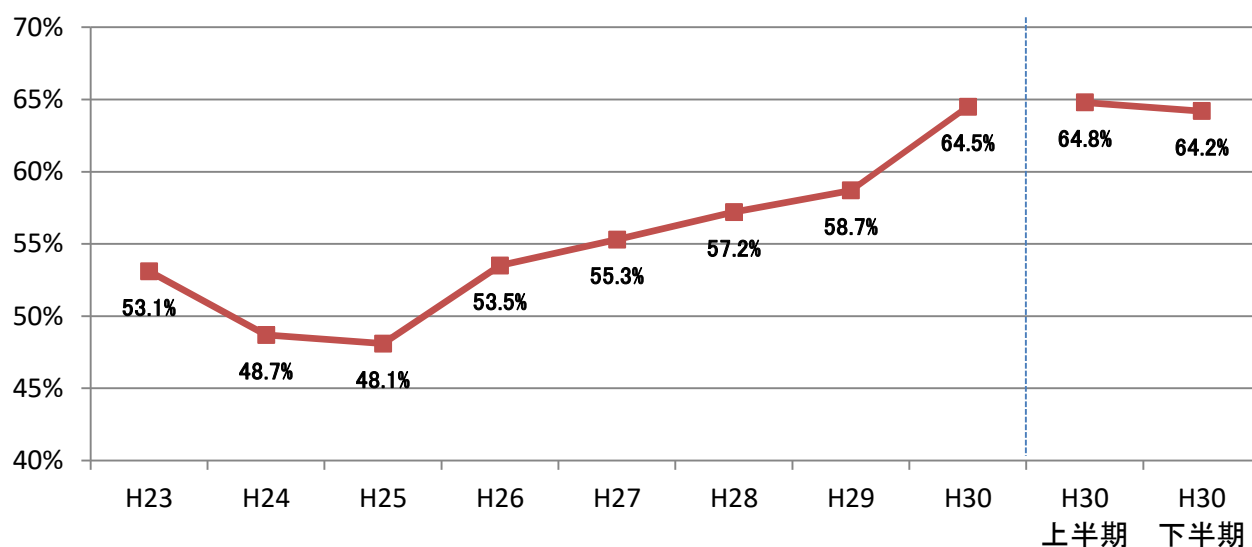


○ 前年と比べ、窓口及びATMでの調達回数は減少している。

○ 有人、無人問わず、ATMでの調達の割合は全体の58%を占めている。

(5) 金融機関窓口における阻止率

金融機関窓口における阻止率の推移



※阻止率＝窓口での未然防止件数(1,007件)÷(窓口での未然防止件数(1,007件)+窓口での引き出し件数(554件))×100

○ 前年と比べ、金融機関窓口における阻止率は、高くなっている。

【現金調達時における「被疑者の指示」】

○ 「金融機関窓口」で、預貯金の引き出し、または定期預金等の解約をする理由として、次のように答えるよう指示している。

- ・ リフォーム代、修繕費用として
- ・ 旅行に行くため
- ・ お墓を購入するため
- ・ 夫（妻）の入院費・治療費として
- ・ 自宅保管しておきたい
- ・ 息子（孫）の入学・結婚費として

※ 最近の傾向では、「自分のお墓を建てる、今後のために自分の手元に置いておきたい」との指示が増加傾向にある。

(6) 未然防止の好事例

1 金融機関職員による未然防止

防止者は、窓口業務中、被害者（80代・女性）が不祝儀名目で50万円を引き出そうとしたが、同人がほんの20分前にも生活費名目で同額を引き出したのを知っており、事情を聞いたところ「孫に渡す」と答えたため詐欺を疑い、警察に通報して被害を未然に防止した。

2 コンビニエンスストア店員による未然防止

防止者は、店内で勤務中、被害者（60代・男性）が同店内ATM前で携帯電話で通話していたが、ATMを操作することなく店を出て、通話したまま隣の無人ATMの列に並び直したのを見たため、声かけしたところ「還付金の手続き」と話したため、詐欺と教示し被害を未然に防止した。

3 配送業者による未然防止

防止者は、配達先が空室であったので荷物を営業所に持ち帰ったが、その荷物を受領したいと「代理人」と名乗る者から電話を受けたため不審に思い、警察に通報。結果、荷送人である被害者（70代・女性）が現金を入れたことが判明、詐欺と教示し被害を未然に防止した。

4 会社員による未然防止

防止者は、会社で勤務中、雨天の中を社屋の前で何時間も立っている高齢者がいると同僚らが話しているのを聞き、次長と共に事情を聞きに行くと、被害者（80代・女性）が、「息子を待っている。お金を渡す。」と話したため詐欺を疑い、警察に通報して被害を未然に防止した。

5 駅員による未然防止

防止者は、駅で勤務中、小さな駅にもかかわらず長時間人待ち顔で佇んでいる被害者（70代・女性）を見かけ、声かけしたところ、「孫にお金を渡す。孫が来られなくなったので代わりの人に渡す。」と答えたため詐欺と確信、警察に通報して被害を未然に防止した。